

第1号議案 平成24年度事業報告について

I. 法人の概要

1. 名称等

公益社団法人日本造園学会

英文表記：Japanese Institute of Landscape Architecture

設立等：大正14年4月14日社団法人日本造園学会設立

平成24年4月1日付けで公益社団法人へと移行

2. 主たる事務所の所在地

東京都渋谷区神南1丁目20番11号

3. 会員

会員種別	員数		増減(△)数
	本年度末現在 (H25.3.31現在)	前年度末現在 (H24.3.31現在)	
名誉会員	18	19	△1
正会員	2,419	2,438	△19
準会員	5	14	△9
賛助会員	61	66	△5
購読会員	134	138	△4
計	2,637	2,675	△38

4. 会費

正会員12,000円、正会員(大学院生)9,000円、準会員(学部生)3,000円、
賛助会員1口18,000円、購読会員1口12,000円

5. 執行体制

理事の数：20人(非常勤)

監事の数：3人(非常勤)

職員の数：3人(常勤2人、非常勤1人)

6. 公益目的事業

造園に関する調査研究、出版、講習・研修、専門教育推進・評価、表彰を通じて、造園に関する学術および技術の進歩をはかり社会の発展に貢献する事業

7. 収益事業等

なし

II. 事業の状況

1. 調査研究事業

(1) 一般研究

- ・ 学会内には、生態工学，緑化環境工学，ランドスケープ遺産，ランドスケープ建設技術，景観計画・デザイン，ランドスケープマネジメント等に関する研究グループを組織し，社会的要請に対応するための個別テーマに特化した調査研究を行った。
- ・ これらの成果は，後述する機関誌への掲載（出版事業）や全国大会における研究集会（講習・研修事業）等において公表した。

(2) 特別研究

- ・ 東日本大震災に関する調査研究活動の成果のとりまとめと公表を行った。
- ・ 成果の公表は，後述するように，機関誌への掲載および書籍（出版事業），その他の全国大会における研究集会（講習・研修事業）等を通じて行った。

(3) 受託研究

- ・ 受託研究として，（一社）日本造園建設業協会より，「東日本大震災復興支援調査とりまとめ業務」を実施した。その成果は，出版事業や講習・研修事業を通じて公表した。

2. 出版事業

(1) 機関誌「ランドスケープ研究」

- ・ 機関誌「ランドスケープ研究」76巻1～4号を編集，刊行した。
- ・ 記事の内容は，全国大会関連記事，特集企画に加え，各種の連載記事，学会からの連絡事項等とした。
- ・ 特集企画のテーマは，「ランドスケープ研究の潮流と成熟社会，震災復興への展望」（76巻1号），「ランドスケープ現代史：戦後復興の創造力」（76巻2号），「自然エネルギーとランドスケープ：ランドスケープが拓く自然エネルギーを活かした国土の未来像」（76巻3号），「実務界の風と公共ランドスケープ」（76巻4号）とした。
- ・ 1号からの新たな連載記事として「復興のランドスケープ」と「恩師からのバトン」の掲載を開始した。
- ・ 刊行作業では，造園に係わる研究者，実務者から構成される編集委員会を組織し，造園学術および技術に係わる各号のテーマや執筆者等を選定した。
- ・ 77巻3号までに掲載する特集企画および連載企画内容，執筆者を検討した。

(2) 研究発表論文集およびオンライン論文集

- ・ 造園に関する会員の優れた研究論文を掲載した研究発表論文集をランドスケープ研究76巻第5号として刊行した。研究発表論文集への掲載が決定した論文の第一著者は，全国大会（講習・研修事業）における発表が義務づけられる。
- ・ 年3回募集され，J-STAGE上でオンラインのみで公開される論文集として，オンライン論文集6巻を刊行した。
- ・ 論文集の刊行作業では，造園に係わる研究者から構成される論文集委員会を組織し，規定に

したがって投稿された論文を査読して、学術的水準を評価し、論文集への掲載の可否を決定した。

(3) 造園作品選集

- ・ 会員による優れた造園設計計画作品を掲載した「造園作品選集 2014」の刊行準備を行った。そのために、造園に係わる研究者や実務者から構成される刊行委員会等を組織した。
- ・ ランドスケープ研究 76 巻 3 号および学会ホームページを通じて、造園作品選集 2014 への掲載作品の募集を行った。
- ・ 応募作品となった 73 作品については、作品の書類規定審査を行い、その後、現地審査のための分担と審査内容の確認を行った。

(4) 造園技術報告集

- ・ 会員による優れた造園技術に関する報告を掲載した「造園技術報告集 No.7 2013」を刊行した。
- ・ 技術報告集の刊行作業では、造園に係わる研究者や実務者から構成される刊行委員会等を組織し、規定にしたがって投稿された技術報告を審査して、技術的水準を評価し、技術報告集への掲載の可否を決定した。

(5) その他

- ・ 「復興の風景像ーランドスケープの再生を通じた復興支援のためのコンセプトブッカー」を刊行した。
- ・ その他、講習・研修事業等に係わる出版物等を刊行した。
- ・ 日本都市計画学会、日本計画行政学会と協議しつつ、国際論文誌の刊行に向けた検討を行った。

3. 講習・研修事業

(1) 全国大会

- ・ 平成 24 年度全国大会として、広く教育者、研究者、実務者、市民、学生等を対象とした見学会、公開シンポジウム、ミニフォーラム、研究発表会、受賞者記念講演、ポスター展示等を開催した。
- ・ 開催日程は、平成 24 年 5 月 18 日（金）～20 日（日）、開催場所は 5 月 18 日（金）が国際障害者交流センター（ビッグアイ）、5 月 19 日（土）～20 日（日）が大阪府立大学中百舌鳥キャンパスであった。
- ・ 5 月 18 日（金）は、大会フォーラム「泉北ニュータウン再生を先導する泉ヶ丘駅前地域のパブリックスペースデザイン」および意見交換会を開催した。
- ・ 5 月 19 日（土）は、定時社員総会の他に、平成 23 年度日本造園学会賞の発表ならびに表彰式、学生公開アイデアコンペ審査結果発表ならびに表彰式、日本造園学会賞受賞者記念講演会、東日本大震災復興支援ワークショップ（2 テーマ）、公開シンポジウム「ランドスケープの視点から防災と震災復興を展望する」、ポスター展示、大会企画展示（LANDSCAPE の DESIGN：関西 8 企業展）、学生公開アイデアコンペ作品展示会および交流会を開催した。
- ・ 5 月 20 日（日）は、研究発表会（19 セッション・68 件）、教育職能フォーラム（2 テーマ）、ポスター展示、大会企画展示、学生公開アイデアコンペ作品展示会、ミニフォーラム（8 テーマ）を開催した。

- ・ 3日間にわたる全国大会の参加者は、総数 607 名を数えた。
- ・ 全国大会の成果は、機関誌等（出版事業）にも掲載され、公表された。
- ・ その他には、平成 25 年度全国大会の企画・運営の準備等を行った。

（2）支部大会

- ・ 平成 24 年度支部大会を、北海道、東北、関東、中部、関西、九州の各支部において、開催した。広く教育者、研究者、実務者、市民、学生を対象にした見学会、公開シンポジウム、フォーラム、研究発表会、ポスター展示等を実施した。
- ・ 関東支部大会を、平成 24 年 11 月 23 日（金・祝）～24 日（土）に、筑波大学筑波キャンパス（茨城県つくば市）他で開催した。現地見学会・現地セッション、事例・研究発表会（55 件）、学生デザインワークショップ「原発の被害を受けた土地と向き合う」の成果発表会、公開シンポジウム「住み続けたいつくば、住み続けられるつくば」、交流会等を開催した。
- ・ 関西支部大会を、平成 24 年 10 月 27 日（土）～28 日（日）に、京都造形芸術大学（京都市）で開催した。シンポジウム「歴史都市・京都の防災とランドスケープ」、見学会、交流会、研究・事例発表セッション（口頭発表 32 件、ポスター発表 22 件）、関東支部第 8 回学生デザインワークショップ サマースタジオ 2012「原発の被害を受けた土地と向き合う」の成果発表、ランドスケープコンサルタンツ協会関西支部の「CLA の活動」の企画展示、公開研究会「ランドスケープ遺産イベントリーづくり」等を開催した。
- ・ 九州支部大会を、平成 24 年 11 月 24 日（土）～25 日（日）に、南九州大学（宮崎県都城市）にて開催した。「東アジアのランドスケープを考える」を大会テーマとし、研究・事例報告会（口頭発表 29 件、ポスター発表 12 件）、講演会「水土の知からランドスケープ遺産を考察するー筑後川中流の 4 堰の歴史に学ぶー」、パネルディスカッション「ランドスケープ遺産からランドスケープの未来を考える」、ポスター展示、学生作品展示、キャンパスツアー、交流会およびテクニカルツアー等を開催した。
- ・ 北海道支部大会を、平成 24 年 10 月 6 日（土）～7 日（日）に、札幌市立大学サテライトキャンパス（札幌市）にて開催した。研究・事例報告会（口頭発表 12 件、ポスター発表 7 件）、北海道学生セッション（ポスター発表 18 件）、シンポジウム「北海道のランドスケープと観光」、交流会および見学会を開催した。
- ・ 東北支部大会を、平成 24 年 10 月 13 日（土）～14 日（日）に、郡山市市民交流プラザ（福島県郡山市）にて開催した。「ランドスケープから震災復興を考える」を大会テーマとし、基調講演「東日本大震災の被災状況と復旧・復興への取組等について」およびパネルディスカッション、ポスターセッション、交流会、エクスカッション等を開催した。
- ・ 中部支部大会を、平成 24 年 11 月 24 日（土）～25 日（日）に、富山大学（富山県富山市）他で開催した。見学会、交流会、研究発表・ポスター発表（19 件）、公開シンポジウム（基調講演「コンパクトシティ戦略による富山型都市経営の構築」、パネルディスカッション）等を実施した。

（3）日中韓国際ランドスケープ専門家会議・国際シンポジウム

- ・ 日本造園学会と中国風景園林学会、韓国造景学会の三者が共催で、東アジアの教育者、研究者、実務者、市民、学生を対象に、三学会持ち回りで隔年 1 回の頻度で開催している。今回は、平成 24 年 9 月 12 日（水）～15 日（土）に開催された大韓民国（順天市）で第 13 回韓中日ランドスケープ専門家会議およびシンポジウムの準備を行うとともに、大会参加をした。
- ・ 研究発表会の発表内容の学術的な質を確保するため、日中韓論文集刊行委員会を組織し、編

集活動を行った。

- ・ 日中韓国際ランドスケープ専門家会議・国際シンポジウムの成果は、機関誌や報告書等（出版事業）で公表した。

（４）その他

- ・ 日本造園学会東日本大震災復興支援パネル展を、平成 24 年 4 月に日比谷公園内「緑と水の市民カレッジ」で開催した。
- ・ 日本学術会議「巨大災害から生命と国土を護る -二十四学会からの発信-」を、平成 24 年 6 月および 11 月に日本学術会議講堂で開催した。
- ・ 平成 24 年 10 月開催の第 29 回全国都市緑化フェア TOKYO のランドスケープ遺産イベント（シンポジウム、パネル展示、見学会）の企画および実施に協力した。
- ・ その他、講習や研修に係わる事業を実施した。

4. 専門教育推進・評価事業

（１）JABEE 認定審査

- ・ 造園関連分野の大学等における実務者養成の支援、促進のための JABEE（日本技術者教育認定機構）の認定審査・認定継続審査の受審、審査申請予定校の支援に関しては、認定審査および認定継続審査の対象校が無いなか、審査員の育成等に関する意見交換を行った。

（２）環境・造園系専門職大学院認証評価

- ・ 平成 24 年 7 月 31 日付けで、文部科学大臣より、「専門職大学院のうち環境・造園分野の認証評価を行う認証評価機関」として認証された。
- ・ 環境・造園系実務者の養成機能の維持・向上のために、受審校の適格性の認証評価を行うこととしており、平成 24 年度は、1 校より環境・造園系専門職大学院認証評価申請書等を受け付けた。

（３）造園 CPD 制度（継続教育制度）の運営

- ・ 造園 CPD 制度の運営として、会員登録、実施記録登録、実施記録登録証明書の申請、プログラム認定申請等の各種システムの運営を行った。
- ・ 造園 CPD 会員の入退会や会員区分異動の対応、会員証の発行を行い、平成 24 年度の新規会員は 528 人、会員登録者数は 7,978 人となった。
- ・ 実施記録登録証明書の発行（836 通）、認定プログラムの情報提供、各種問い合わせの対応を行った。
- ・ 平成 24 年度実施分のプログラムとして 520 件を認定した（平成 25 年 3 月 31 日現在）。
- ・ その他、広報・普及活動、関連団体との情報収集・交換等を実施した。

5. 表彰事業

（１）日本造園学会賞・奨励賞・上原敬二賞及び特別賞

- ・ 造園に関する学術、技術および芸術の進歩をはかるため、造園に関し特に優秀な業績をあげた会員に「日本造園学会賞」を授与する。研究論文、技術、設計作品の 3 部門があり、また各部門に「奨励賞」を設けている。また、造園の分野において著述、教育あるいはその他広

範な社会活動を通じて造園の進歩・発展ならびに啓蒙に多大な貢献をしたと認められるものに「上原敬二賞」を授与している。さらに、自然と文化の保全を図り、調和のある、新しい環境の創造に寄与した優れた造園に関する業績（著作出版業績を含む）に、会員・非会員を問わず、「日本造園学会特別賞」を授与している。

- ・ いずれも識見の高い研究者及び実務者から構成される学会賞選考委員会が、規定にしたがって審査選考を行っている。
- ・ 平成 24 年度は、平成 23 年度に審査選考された授賞候補者について、理事会にて審議・決定し、全国大会において表彰した。内訳は、日本造園学会賞は、研究論文部門 1 名、技術部門 1 名、設計作品部門 1 名、同奨励賞は研究論文部門 9 名、技術部門 1 名、設計作品部門 1 名、同特別賞は 2 件であった。また、平成 24 年度分の応募者等について審査選考を実施した。
- ・ 国立公園行政で指導的役割を果たした田村剛にちなむ賞を設置するための規程の整備等について検討した。

（２）その他

- ・ 若手研究者の支援と学術研究活動の活性化を図るために、「学生公開アイデアコンペ」、「ベストペーパー賞」、支部における各種表彰等を実施した。
- ・ 特定の課題に対する計画・設計作品、論文・発表等について、識見の高い専門家から構成される審査委員会がこれを審査し、優れたものについて表彰する形式をとった。

6. その他

- ・ 公益法人としての運営の適正化を図るために、事務局機能の強化、各種規程・規則の改定および整備等に努めた。
- ・ 学会の公益事業に関する情報の発信や会員サービスの向上等に資するために、学会ホームページの運用の改善を図った。

Ⅲ. 役員等に関する事項

1. 役員

役名	氏名	就任年月日	担当職務	手当	職名 (H25. 3. 31 現在)
理事・会長	増田 昇	H. 11. 5. 29	総括	無	大阪府立大学大学院生命環境科学研究科教授
理事・副会長	*高梨 雅明	H. 19. 5. 19	CPD・支部	無	(一社)日本造園建設業協会常任顧問
理事・副会長	下村 彰男	H. 11. 5. 29	学会賞・校閲	無	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
理事	柳井 重人	H. 21. 5. 23	総務・タスクフォース	無	千葉大学大学院園芸学研究科准教授
理事	金子 忠一	H. 19. 5. 19	企画・支部	無	東京農業大学地域環境科学部教授
理事	小林 達明	H. 19. 5. 19	学術・学会賞	無	千葉大学大学院園芸学研究科教授
理事	小野 良平	H. 19. 5. 19	編集・校閲	無	東京大学大学院農学生命科学研究科准教授
理事	横張 真	H. 13. 5. 26	国際	無	東京大学大学院新領域創成科学研究科教授
理事	麻生 恵	H. 13. 5. 26	技術報告	無	東京農業大学地域環境科学部教授
理事	大黒 俊哉	H. 21. 5. 23	論文集	無	東京大学大学院農学生命科学研究科准教授
理事	金岡 省吾	H. 21. 5. 23	企画・CPD	無	富山大学地域連携推進機構教授
理事	斎藤 馨	H. 13. 5. 26	論文集・校閲	無	東京大学大学院新領域創成科学研究科教授
理事	柴田 昌三	H. 23. 5. 21	編集・学会賞	無	京都大学フィールド科学教育研究センター教授
理事	下村 泰彦	H. 23. 5. 21	総務・タスクフォース・学術	無	大阪府立大学大学院生命環境科学研究科准教授
理事	鈴木 義人	H. 21. 5. 23	財務・技術報告・CPD	無	(株)柳島寿々喜園代表取締役社長
理事	塚本 瑞天	H. 23. 5. 21	国際	無	環境省九州地方環境事務所長
理事	平田富士男	H. 23. 5. 21	学術	無	兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科教授
理事	前澤 洋一	H. 23. 5. 21	編集・CPD	無	(株)プレック研究所専務取締役
理事	丸山 宏	H. 23. 5. 21	論文集	無	名城大学農学部教授
理事	吉田 恵介	H. 23. 5. 21	学術	無	札幌市立大学デザイン学部教授
監事	池邊このみ	H. 17. 5. 14	監査	無	千葉大学大学院園芸学研究科教授
監事	鈴木 誠	H. 17. 5. 14	監査	無	東京農業大学地域環境科学部教授
監事	宮城 俊作	H. 13. 5. 26	監査	無	奈良女子大学生活環境学部教授

※理事の就任年月日は新任の際の就任年月日である。

※表中*印は「公益法人の設置許可及び指導監督基準」および「同運用指針」に該当する国家公務員出身者である。

2. 支部長

支 部	役名	氏 名	就 任 年月日	職 名 (H25. 3. 31 現在)
関 東	支部長	小木曾 裕	H. 24. 4. 14	UR 都市機構技術研究所
関 西	支部長	若生 謙二	H. 24. 4. 1	大阪芸術大学芸術学部環境デザイン学科教授
九 州	支部長	矢幡 久	H. 23. 4. 1	西日本短期大学緑地環境学科教授
北海道	支部長	吉田 恵介	H. 20. 8. 29	札幌市立大学デザイン学部教授
東 北	支部長	温井 亨	H. 23. 10. 15	東北公益文化大学公益学部准教授
中 部	支部長	丸山 宏	H. 17. 11. 4	名城大学農学部教授

3. 幹事（総務委員会委員兼任）

役 名	氏 名	就 任 年月日	担当 職務	職 名 (H25. 3. 31 現在)
幹 事	入江 章昭	H. 12. 7. 29	総 務	東京農業大学短期大学部准教授
幹 事	大久保 悟	H. 19. 6. 30	総 務	東京大学大学院農学生命科学研究科助教
幹 事	三島 孔明	H. 13. 6. 23	タスクフォース	千葉大学大学院園芸学研究科准教授
幹 事	國井 洋一	H. 23. 6. 18	企 画	東京農業大学地域環境科学部准教授
幹 事	雨宮 護	H. 23. 6. 18	編 集	東京大学空間情報科学研究センター助教
幹 事	大澤 啓志	H. 23. 6. 18	学 術	日本大学生物資源科学部准教授
幹 事	篠沢 健太	H. 17. 7. 9	国 際	工学院大学建築学部准教授
幹 事	高山 範理	H. 23. 6. 18	論文集	(独)森林総合研究所
幹 事	板垣 範彦	H. 24. 12. 8	作品選集刊行	いきものランドスケープ
幹 事	栗野 隆	H. 23. 6. 18	技術報告集	東京農業大学地域環境科学部助教
幹 事	荒井 歩	H. 15. 7. 12	学会賞選考	東京農業大学地域環境科学部准教授
幹 事	小林 雅彦	H. 23. 6. 18	J A B E E	(一財)公園財団
幹 事	近江 慶光	H. 23. 6. 18	造園CPD推進	千葉大学大学院園芸学研究科助教

4. 職員

職 務	氏 名	就 任 年月日	担当 職務	備 考
事務職員	芹田 留美	H. 7. 4. 1	事 務	常 勤
事務職員	久住 悦子	H. 21. 10. 1	事 務	常 勤
事務職員	神田 紀喜	H. 24. 4. 1	事 務	非常勤